



焼津駅南“まちづくりプラン”説明会



1. 各種関連計画について
2. 社会・経済等の状況について
3. 市民の意向状況
4. 焼津駅南まちづくりプランの検討
5. 焼津駅南に求められる機能
6. まちづくりの流れ
7. 焼津駅南“まちづくりプラン”
8. 今後の予定



1. 各種関連計画について

計画体系図

焼津市総合計画

焼津市都市計画
マスタープラン

焼津市中心市街地
活性化基本計画


焼津ダイヤモンド構想
「アクションプログラム」

焼津市総合計画（市の将来都市像）⇒焼津市都市計画マスター
プラン（市の都市計画に関する基本的な方針）⇒焼津市中心市
街地活性化基本計画（市の中心市街地のまちづくりの方針）

焼津ダイヤモンド構想
（将来ビジョン・まちづ
くりの方針）

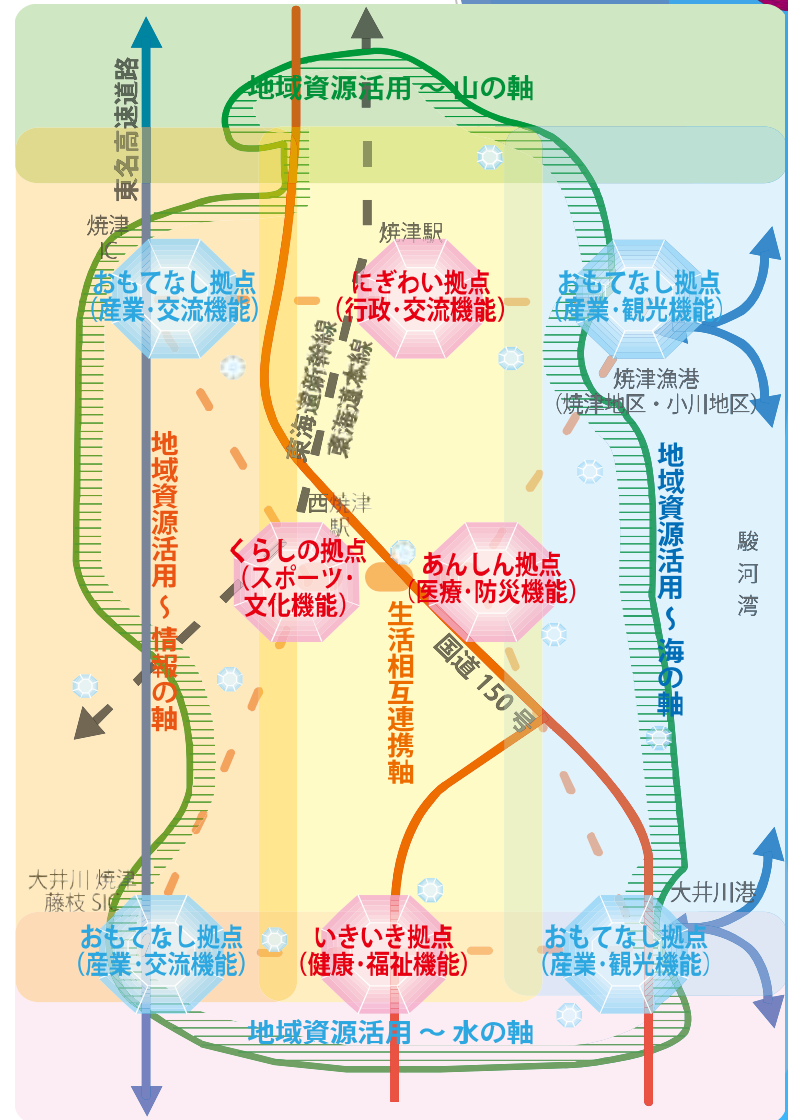


① 焼津ダイヤモンド構想

市内に8つの拠点を設け、
各拠点の機能の活用により、
まちの新たな魅力を創造



『市民が輝かしい生活を
安心して暮らせるまち』



焼津駅を中心とする地域を「にぎわい拠点（行政・交流機能）」と位置づけ、商業・業務や行政・交流などの機能形成を目標とし、具体的なアクションプログラムを推進。



②焼津市中心市街地 活性化基本計画

焼津駅前/市役所周辺/内港を
にぎわい拠点として位置づけ、
整備を行う。



『住む人が誇りを持ち、
訪れる人が魅力を感じる
にぎわいのあるまち』



「焼津駅周辺」「市役所周辺」「内港周辺」をにぎわいの拠点とし、共同化事業や空き店舗対策など様々な事業でにぎわいの創出を図り、持続可能で魅力的なまちを目指す。

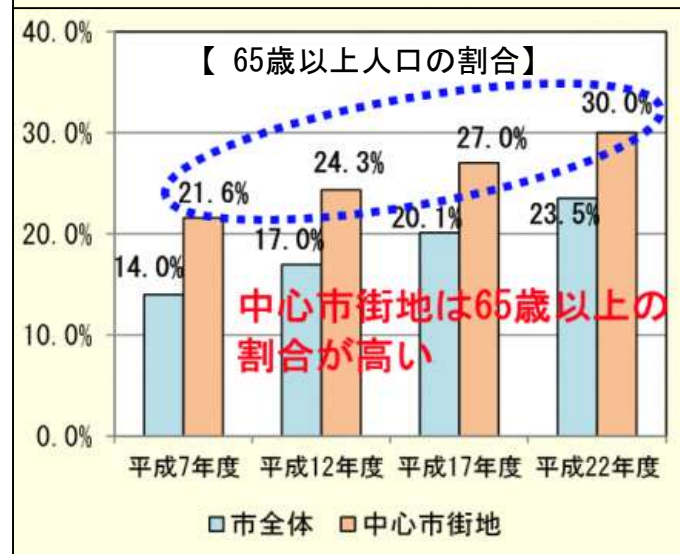
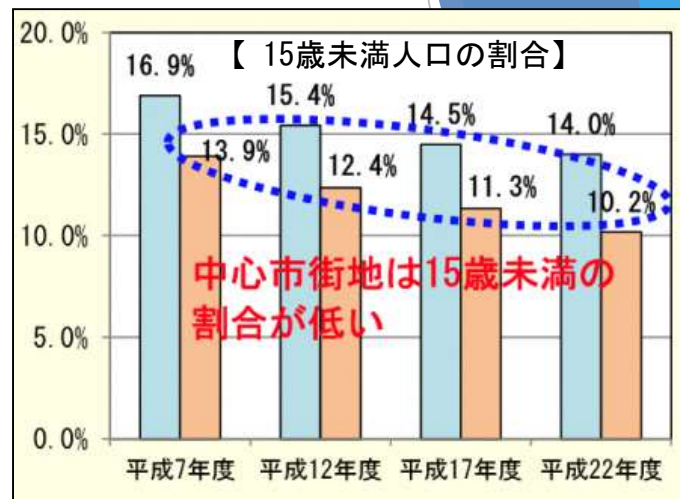
2. 社会・経済等の状況について



①人口の状況



- ◇人口減少・少子高齢化の傾向
- ◇中心市街地では傾向が顕著にでている

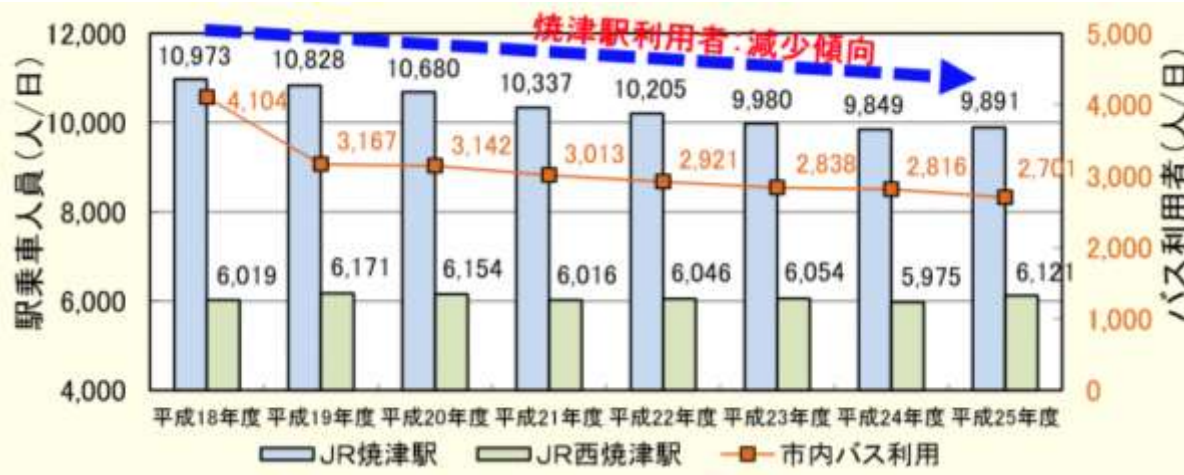


全国的な傾向と同様に、人口減少・少子高齢化が進んでおり、15歳未満人口の割合の低さや65歳以上の高齢者の割合の高さは、中心市街地で強く示されている。



②交通の状況

【鉄道・バス利用者数推移】



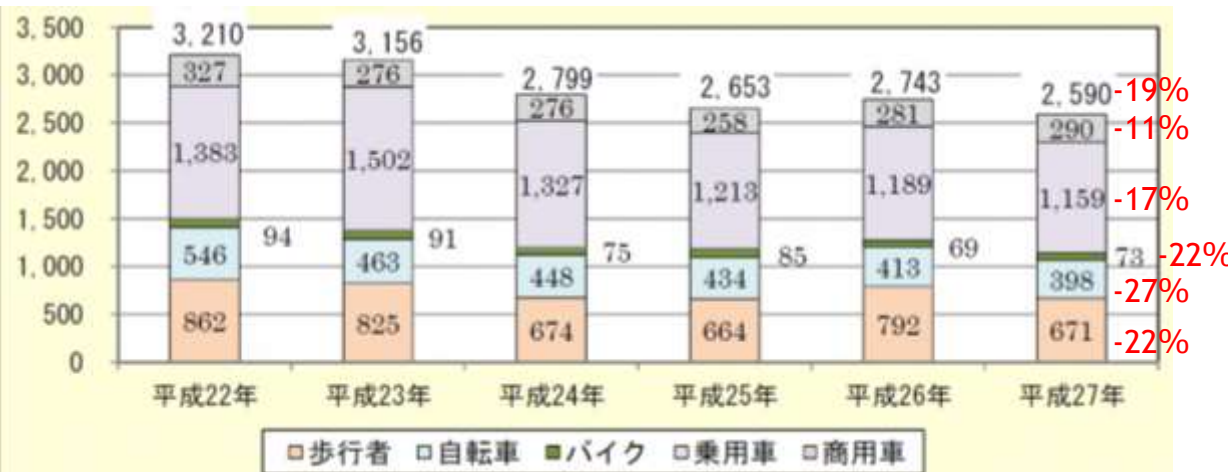
◇利用者数

JR焼津駅：9%減
市内バス：34%減

◇交通手段

自家用車：68%超

【駅前通り交通量の推移】



◇駅前通り交通量

全体：19%減

歩行者：22%減

自転車：27%減

鉄道やバスといった公共交通機関利用者は年々減少し、日常的な交通手段は乗用車が定着。駅前通りにおいては、お客様となる可能性が最も高い、歩行者・自転車の減少が平成22年以降、20%以上の減少。

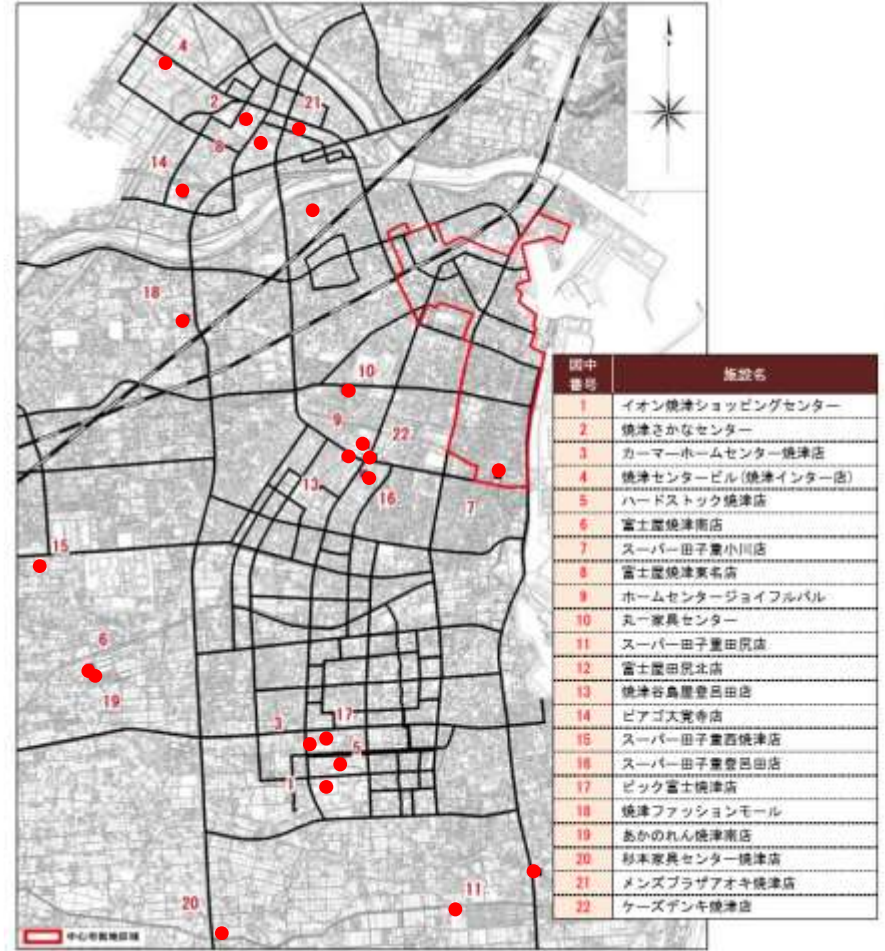


③ 商店街の状況

【 市内商店街の店舗数推移】



【 市内中心部大型店】



- ◇ 店舗数：約30%減
- ◇ 食品を中心とした最寄品取扱店が少ない

- ・ 商店数は、市内各商店街全体で30%以上減少。
- ・ 駅前通り商店街は、周辺に多くの住居があるものの、商店数の減少に加え、最寄品取扱店が少なく、生活の利便性が低い状況。



④産業の状況

【 焼津市観光交流客数推移】



- ◇観光交流客数：年間400万人程度
- ◇宿泊客：44万人程度

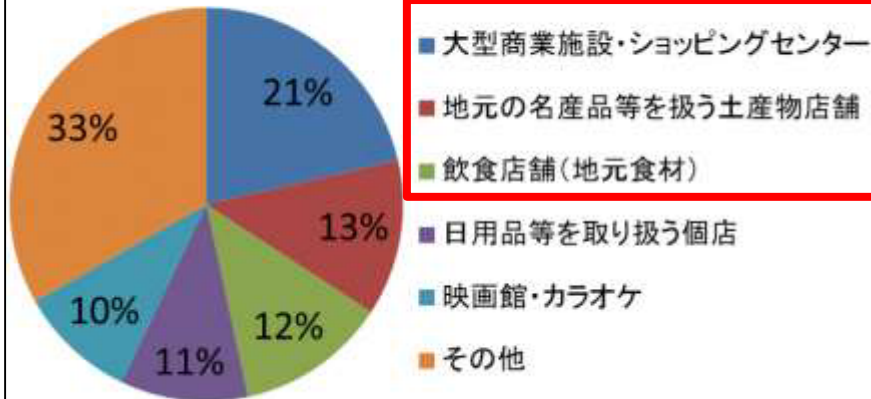
焼津市では年間400万人ほどの観光交流客数が示されているものの、宿泊客は44万人程度にとどまっており、市内の消費拡大につながっていない状況。

3. 市民の意向の状況

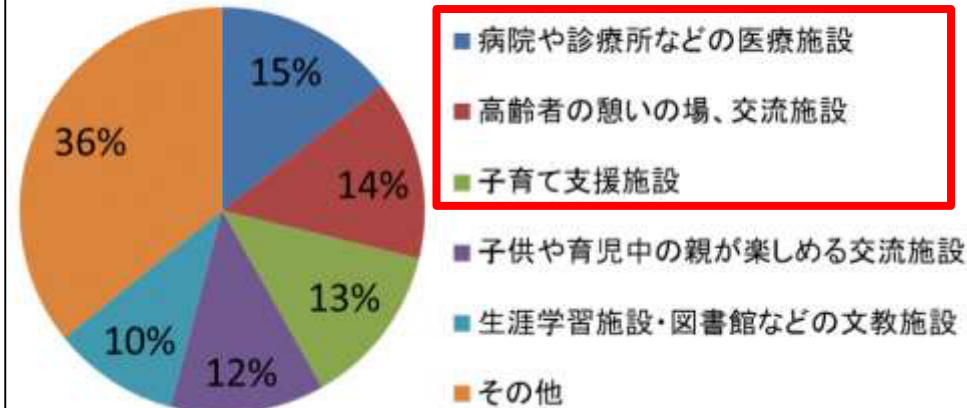


※平成27年『焼津市中心市街地活性化基本計画』より

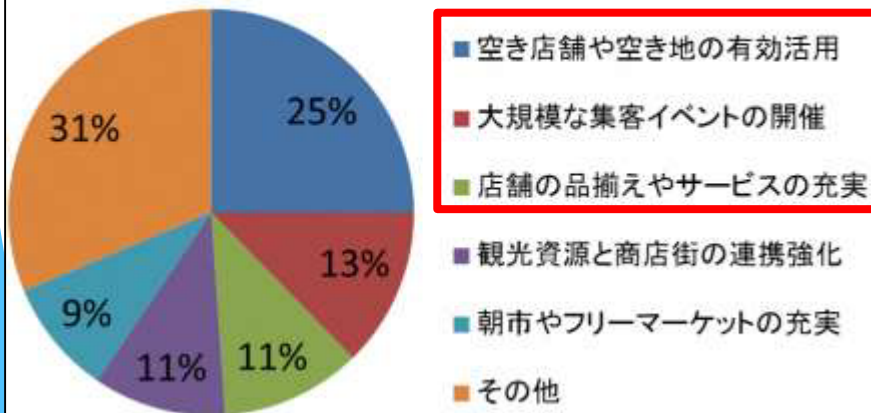
中心市街地に必要だと思う『商業機能』



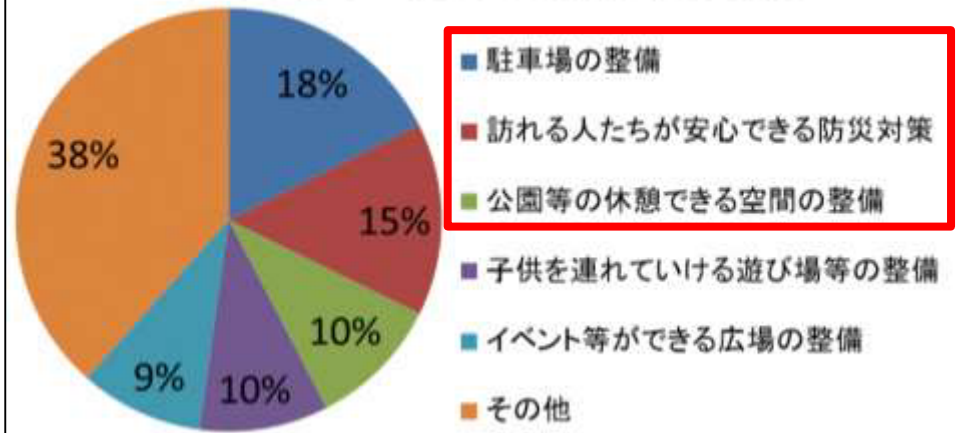
中心市街地に必要だと思う『公共公益施設』



中心市街地に必要だと思う『ソフト対策』



中心市街地に必要だと思う『環境整備』



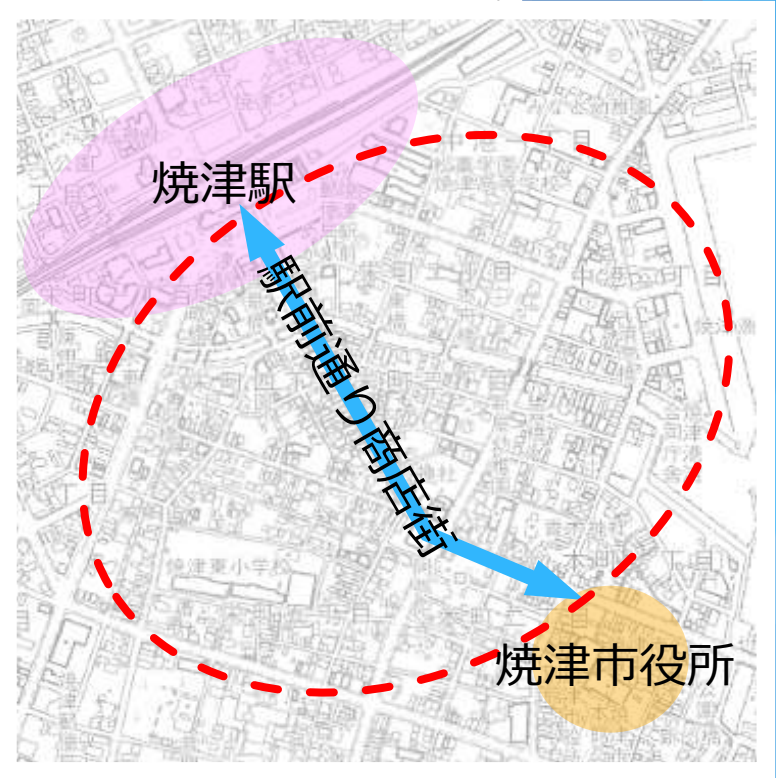
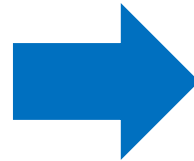
商業：大型商業施設や地産品の活用 施設：医療、高齢者福祉、子育て関連機能の導入
 ソフト：空き店舗等の活用、イベントの充実など 環境：利便性の向上、憩いの空間の創出



4. 焼津駅南まちづくりプランの検討

焼津ダイヤモンド構想（にぎわい拠点）

焼津駅南まちづくりプラン



焼津ダイヤモンド構想の実現に向け、焼津駅から市役所に至る区域において“にぎわい”に満ちた魅力的なまちの創出を目指す「まちづくりの方針」として「焼津駅南まちづくりプラン」を検討。

5. 焼津駅南に求められる機能



① 居住機能

新たな居住スペースの供給と、生活利便性の向上により、定住人口を増加させ、多世代が快適に暮らせる住環境を実現します。

例) 集合住宅/医療福祉施設/子育て支援施設



② 商業機能

焼津の食文化を活かした個店づくりにより、地区への日常の集客力を安定させ、継続的なまちづくりを実現します。

例) 焼津らしい個店 等



③ 観光・宿泊機能

観光客などの滞在時間の延長や宿泊需要の増加による、市内の消費拡大を促進します。

例) 漁港・地産品等の活用 等



④ 駅前交流機能

日常的な流入人口・交流人口を増加させ、新たな需要を創出します。

例) 駅前広場/オフィス 等



焼津市の計画やまちの状況を踏まえ、焼津駅南に求められる機能を整理。
⇒ 「居住機能」 「商業機能」 「観光・宿泊機能」 「駅前交流機能」

6. まちづくりの流れ



機能整備による地区の拠点性強化①
(居住機能/商業機能/駅前交流機能)
◇『住みたい』中心市街地への転換

機能整備による地区の拠点性強化②
(駅前交流機能)
◇人が集い・交流するまちとしての機能強化

地区内産業の活性化
(観光・宿泊機能)
◇観光・ビジネス客に向けた機能の導入

継続的なまちづくりの推進
(居住機能/商業機能)
◇空き店舗対策、リノベーション等による
継続的なにぎわいの創出

地区の定住人口の増加

安定した商圈の獲得

来街者の増加

周辺地区への波及

「地区の定住人口の増加」⇔「安定した商圈の獲得」⇔「来街者の増加」⇔「周辺地区への波及」といった流れを創出し、まちづくりを進める。

7. 焼津駅南“まちづくりプラン”



にぎわい創出ゾーン

生活の利便性を向上させてにぎわいを創出し、まち全体のにぎわいにつなげます。



車両生活・利便動線

駐車場の配置や公共交通機関との効率的な連携を図ります。



福祉・交流ゾーン

子育て支援の充実を図るため、子育て世代の交流の場を創出します。



観光・交流動線

焼津漁港の活用につながる観光機能の配置を目指します。



生活創造・交流ゾーン

焼津の特色を生かした商業機能の充実を図り、憩いの空間の創出を目指します。



交流動線

歩道の緑化・ポケットパーク等により、快適な空間の創出を目指します。



区域内に「にぎわい創出」「生活創造・交流」「福祉・交流」の3つのゾーンと動線を位置づけ、にぎわいの創出に向けた今後のまちづくりの基本的な考え方を整理。

8. 今後の予定



- ・ 7月 **焼津駅南“まちづくりプラン”説明会**
- ・ 8月 **アンケート調査のまとめ**
- ・ 9月～ **まちづくり勉強会**



まちづくりの推進に向けたモデルの検討

今回の説明会にもとづき、アンケート調査の取りまとめを行い、まちづくりの考え方や商業のあり方、事例などをもとに、学び・協議する場としてまちづくり勉強会を開催予定。その後、地元のみなさまの意見や検討をもとに、推進に向けたモデルを検討する予定。



ご清聴ありがとうございました！